

のぞみふくいニューズレター



第28号 (H22. 8月)

(財)がんの子供を守る会 福井支部 発行

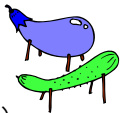
TEL・FAX 0776-22-5132

Email nozomi-f@mx3.fctv.ne.jp

本部 URL <http://www.ccaj-found.or.jp/>

支部URL <http://www3.fctv.ne.jp/~nozomi-f/>

8月。梅雨明けと同時に猛暑い酷暑がやってまいりました。皆様暑中お見舞い申し上げます。各地に自然災害も起こっており、本当にお気をつけくださいませ。熱中症など、皆様体調は崩されていませんか。夏休みで、ご家族が帰省されているところも多く、お盆休みで、福井も人口が多く感じられます。同時に、亡くなった子、家族も家に帰ってきていると感じられます。各地で花火大会も開催され、暑い夏ですが家族の時間をゆっくりとお過ごしください。(文責：代表幹事。)



福井大学附属病院小児科病棟にて、のぞみお話タイム 夏祭り 開催。



7月28日(水)お話タイムのMバーによるお祭を開催しました。紙芝居を楽しんだ後、うちわ作りをし、ダーツや、金魚つり、ビンゴ大会で、子供たちは楽しいひと時を過ごせたようです。病院のご協力も賜り、ありがとうございました。



福井県難病支援センター事業 小児がんピアカウンセリング交流会嶺南地区開催。

2010年8月1日(日) 午後1時30分から敦賀市の「プラザ万象」 会議室にて行いました。参加者は、2名。(幹事3名を除く) どちらもお子様を亡くされたお母様でしたので、幹事も2人は子供を亡くしているので、子供を亡くした親の会になりました。参加者のお一人は、息子さんを交通事故で亡くされた方。鯖江での他の自助グループに参加しているが、敦賀には自助グループがない。病気で亡くなった方とは感じ方が違うが、グリーフの勉強をしていて、敦賀での開催で地元であり、今回、勉強のために参加したということです。その自助グループは、様々な理由でお子様を亡くされた方がいらっしゃる。小児がんでお子様を亡くした親御さんもいるということ。お子様を亡くす前のターミナルの時期から、亡くした直後のケア。病院や保健センターなどの行政が子供を亡くした家族のケアについても考えていただきたい。そこから、うつなど精神疾患になる方、家族の崩壊で離婚などの問題も出てきます。あつという間に時間は過ぎ、グリーフケアについて考える時間になりました。

福井県難病患者団体連絡協議会主催 ピアカウンセリング研修会に参加して。

ピアとは、経験したもの同士。仲間ということです。ピアカウンセリングをするに当たっての開催者のための研修会がありました。光陽生協病院のカウンセラーの熊谷香奈江先生が、講師でした。先生も透析患者で、ピアカウンセラーだとおっしゃっていました。ピアの役割は、社会資源などの情報提供・精神的サポートである。ピアの最大の魅力は、障害や病気の内容などを隠さずにありのまま話することができる。仲間として共感し、わかちあえることである。相手の気持ちになって、傾聴することが大事。情報は提供しても、自分の意見は言わない。自分に手におえないときは、他の機関を紹介する。相談者が希望を持って帰られるようなカウンセリングが出来たらいい。ということでした。

補足として、難病患者のための就労支援協議会が県に発足しました。県立病院の難病支援センターに就労専門のカウンセラーがいます。大人の難病患者対象ですが、小児がんのお子様就職するといふときの相談は受け付けていただけます。

北陸小児がん研修会 (のぞみ 富山・石川・福井交流会) を開催します。

2010年9月5日(日) 午後1時から4時まで JR金沢駅 西口から バスで20分、タクシーで10分 石川県庁となり。

石川県地場産業振興センター 第三研修室にて 支部のない石川県での小児がんに対する理解と仲間を求めて開催します。

お問い合わせは支部まで